WAVIO AV SYSTEM

PCI Express DIGITAL AUDIO BOARD

SE-300PCIE
インストールマニュアル

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「インストールマニュアル」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

ご使用になる前に 2

オーディオボードの取り付け 9

ドライバのインストール 14

コンソールランチャの使い方 19

再生する 34

録音する 36

その他 38

特長

先進のデジタル技術と最高峰のオーディオ技術を融合。従来の概念を打ち破った高周波ノイズを寄せ付けない画期的オーディオボード。新開発上下対称シンメトリーディスクリート回路の圧倒的なサウンドパフォーマンスで、これからのデジタルオーディオ時代をリードします。

- ■ 高周波ノイズによるビートダウンを起こさないオンキヨーオリジナル回路「DIDRC」搭載
- ■ SN比120dBを実現(2chライン出力端子)し「DIDRC回路」のパフォーマンスを最大限に発揮
- ■ 「絶縁型高レギュレーション±両電源」をオーディオ専用に搭載し従来のPCI Expressオーディオボードが抱える電源/GNDの問題点を完全に解消
- ■ 左右に独立して「D/Aコンバーターチップ」を搭載し左右信号の干渉を極限まで排除
- ■ 回路ブロックにあわせて適切な材料を使用した「セパレートシールド」搭載
- ■ 上下シンメトリー&フルディスクリート構成の「DIDRCヘッドホンアンプ回路」搭載
- ■ 7.1チャンネル出力対応
- ■ ハードウェアアクセラレーションによるEAX®/Open AL・3Dサウンドに対応し3D対応ゲームにおける抜群のパフォーマンスを実現

- WAVIO、DIDRCの名称、ロゴはオンキヨー株式会社の商標です。
- Intel、インテル、Coreは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標、または登録商標です。
- AMDは、Advanced Micro Devices, Incの商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標、または登録商標です。
- X-Fi Technology, EAX ADVANCED HD 5.0は、Creative Technology Ltd.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- 本書に記載されているその他の会社名、製品名、ハードウェアおよびソフトウェアの名称は、各社の商標もしくは登録商標です。

本製品をお使いいただくにあたり、下記注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。

- 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、Windowsの基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
- 本製品を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、将来、予告なく変更されることがあります。
- 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。
- ファイルの内容については、プログラム改良の為予告なく変更されることがあります。
- 本書及び収録されたファイルの内容その他をオンキヨー株式会社の許諾なく改変、複製、配布、転載することを禁じます。

目次

特長 2
目次 3
安全上のご注意 4

製品構成

製品構成 6
必要なシステム構成 7
詳細な情報について 7
オーディオボードについて 8
マルチ入出力拡張ボードについて 8

オーディオボードの取り付け

BIOS の設定 9
オーディオボードの取り付け 10

接続する

オーディオ機器との接続例 12

ドライバのインストール

ドライバのインストール 14
デバイスドライバインストールの確認 18
オーディオデバイスの確認 18

コンソールランチャの使い方

コンソールランチャの起動 19
コンソールランチャのモードについて 19
ゲームモード 20
エンターテインメントモード 25
オーディオクリエーションモード 31

再生する

パーソナルコンピュータの音声を
アンプ内蔵スピーカーで再生する（ライン出力） 34
パーソナルコンピュータの音声を
マルチチャンネルデジタルホームシアターシステムで再生する 35

録音する

外部のオーディオソースを録音する 36

故障かな？と思ったら 38
主な仕様 40
ご相談窓口・修理窓口のご案内 42
修理について 43

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告	誤った使い方をすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った使い方をすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。	高温注意　 感電注意
⃠ 記号は「〜してはいけない」という禁止の内容を表しています。	分解禁止　 ぬれ手禁止
● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。	電源プラグをコンセントから抜く　 必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐにパソコンの電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにPC（パソコン）の電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

パソコンの設置に関するご注意

■水蒸気や水のかかる所に置かない、パソコンの上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

内部に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- パソコンの上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- PC（パソコン）の通風孔などから異物を入れない

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コードに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

⚠ 注意

取り付けに関するご注意

■本製品を取り付ける際は、必ずパソコンの電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

電源を入れたままでの取り付けは、故障や火災・感電の原因となります。

■本製品に触れるときは、縁や取り付けの金属部分を持つ

注意

故障の原因となりますので、ボード上の部品や端子部分には触れないでください。

接続に関するご注意

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

静電気に関するご注意

■本製品に触れるときは、必ず身体の静電気を取り除く

必ずする

PC（パソコン）のケース金属部分に触れて静電気を放出してください。金属製のスプーンなどを手にしっかり握り、スプーンの先で水道管に触るようにすれば、放電の衝撃を和らげることができます。

- 本製品は部品の帯電による故障防止の為、静電気防止袋で保護されています。装着の準備が整うまで、本製品を静電気防止袋から取り出さないでください。また、プラスチック、羊毛の繊維製品など静電気を発生しやすいものは遠ざけておいてください。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をお勧めします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

電源プラグをコンセントから抜く

- お手入れの際は、安全のため必ずPC(パソコン)の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

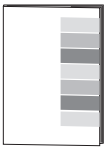
音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

製品構成

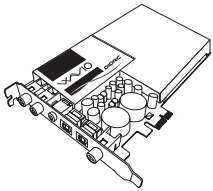
■ 製品構成

（ ）内の数字は数量を表しています

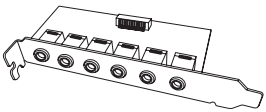


インストールマニュアル
（本書 1）

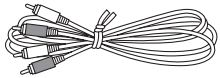
インストール CD-ROM（1）



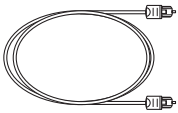
オーディオボード（1）



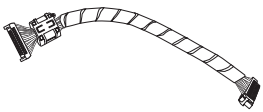
マルチ入出力拡張ボード（1）



オーディオ用ピンコード（1）



光デジタルケーブル（1）



接続ケーブル（1）

保証書（1）

製品構成

■ 必要なシステム構成

- **対応機種**
  PCI Express® 空きスロット1つ、他空きスロット1つを持つ PC/AT互換機
- **対応OS**
  Windows® 8、Windows® 7、Windows Vista® 32bit SP2以降の日本語版
  ※ システム管理者権限（Administrator）でのみ使用可能です。
- **推奨CPU**
  Intel® Core™ iシリーズ、Core™ 2 Duoまたは同等のAMDプロセッサ2.2GHz以上
- **ハードディスク必要容量**
  付属のソフトウェアのインストール時600MB以上
  ※ 音楽データの保存や作業領域用にさらに数百MB以上の空き容量のあるハードディスクをお奨めします。
  ※ お使いのハードディスクのフォーマット形式や確保容量などにより、必要容量は多少異なります。
- **推奨メモリ**
  Windows® 8/Windows® 7/Windows® Vista（32bit）　1GB以上
  Windows® 8/Windows® 7（64bit）　2GB以上
- **必要周辺機器**
  CD-ROMドライブ（または相当品）
  ※ 付属のソフトウェアをインストールするために必要です。
- **Windowsについて**
  Windows日本語版が現在の状態で正しく起動できることを確認してください。

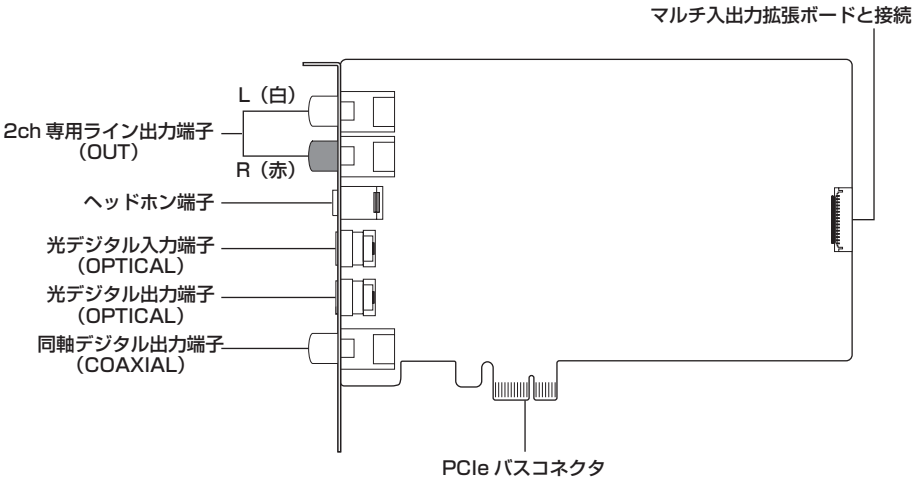
必要な動作環境を満たすパソコンであっても、パソコンシリーズ固有の設計仕様やお客様の使用環境の違いにより、本製品の動作が正常に行われない機種があります。

⚠ご注意
正しく安全にお使いいただくために
ご使用の前にインストールマニュアルをお読みください。

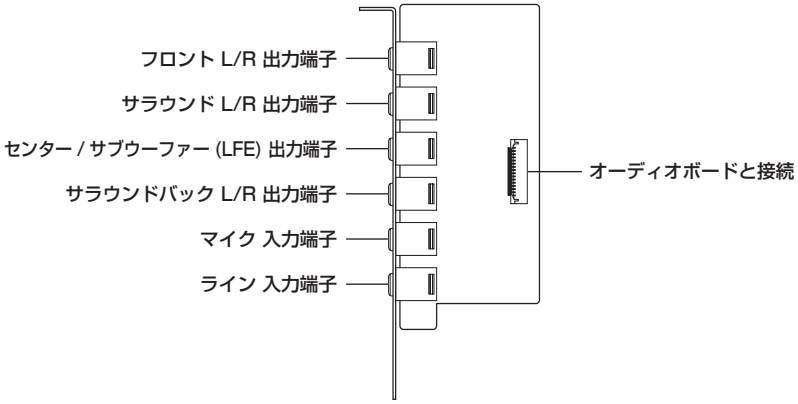
本製品の制限事項や動作確認情報についての詳細は、弊社ホームページ（http://www.jp.onkyo.com/support/pcaudio/index.htm）にてご確認ください。

製品構成

■ オーディオボードについて



■ マルチ入出力拡張ボードについて



オーディオボードの取り付け

ご注意

オーディオボードの取り付けを始める前に、必ず「安全上のご注意」の注意事項を確認してください(4〜5ページ参照)。

■ BIOSの設定

パーソナルコンピュータによってはオーディオ機能をマザーボードに内蔵しているものがあり、そのままの状態では本製品が正しく動作しない場合があります。
本製品を使用するには、BIOSセットアップユーティリティでマザーボードのオーディオ機能を無効にすることを推奨します。パーソナルコンピュータのオーディオ機能、BIOSセットアップユーティリティについては、パーソナルコンピュータに付属のマニュアル等をご確認ください。

1. パーソナルコンピュータの電源を入れます。
2. Windowsが起動する前に、BIOSセットアップユーティリティを起動します。
3. オーディオデバイスが有効になっていれば、無効に設定します。
4. 設定を保存し、BIOSセットアップユーティリティを終了します。

オーディオボードの取り付け

■ オーディオボードの取り付け

1. パーソナルコンピュータと周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
2. パーソナルコンピュータのケース金属部分に触れ、身体の静電気を放出します。

   ご注意

   静電気の放出を行わないと、ボードやパーソナルコンピュータ本体を破壊することがあります。

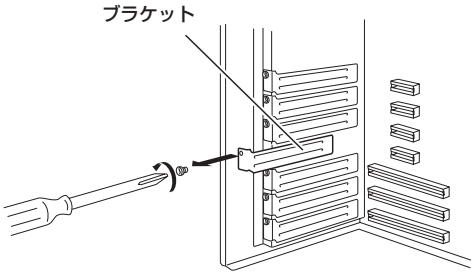
3. パーソナルコンピュータのケースをはずします。

   ♪ヒント

   ケースのはずし方は、お手持ちのパーソナルコンピュータの取扱説明書を参照してください。
4. PCIeバス拡張スロットの位置を確認し、拡張スロットのブラケットを止めているネジをはずします。
5. 上記以外の拡張スロットの位置を確認し、拡張スロットのブラケットを止めているネジをはずします。
6. ブラケットを取りはずします。はずしたブラケットは保管しておいてください。

   ご注意

   パーソナルコンピュータ内部やボードには突起がありますので、けがをしないように注意してください。



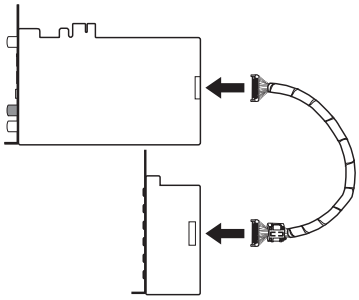
ご注意

ドライバーはネジにあったものをご使用ください。ネジにあわないドライバーを使用されますと、ネジを破損するおそれがあります。

♪ヒント

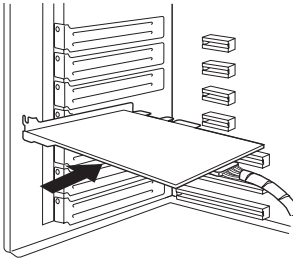
はずしたネジはボードの取り付けに使用しますので、なくさないでください。

7. オーディオボードとマルチ入出力拡張ボードを接続ケーブルで接続します。



オーディオボードの取り付け

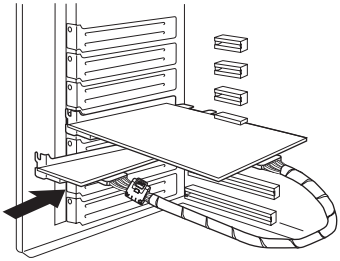
8. オーディオボードの金属端子部分やピンを曲げないように注意してPCIeバスコネクタにまっすぐに挿入します。



ご注意

この時オーディオボードが拡張スロットにしっかり挿入、固定されているか必ずご確認ください。正しく挿入されていないと、認識できなかったり誤動作の原因となる場合があります。

9. マルチ入出力拡張ボードを拡張スロットにしっかり挿入します。



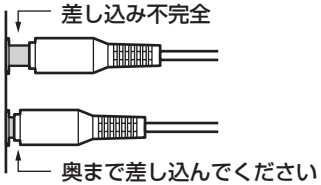
10. 手順4、手順5で取りはずしたネジでオーディオボードとマルチ入出力拡張ボードを拡張スロットに固定します。

接続する

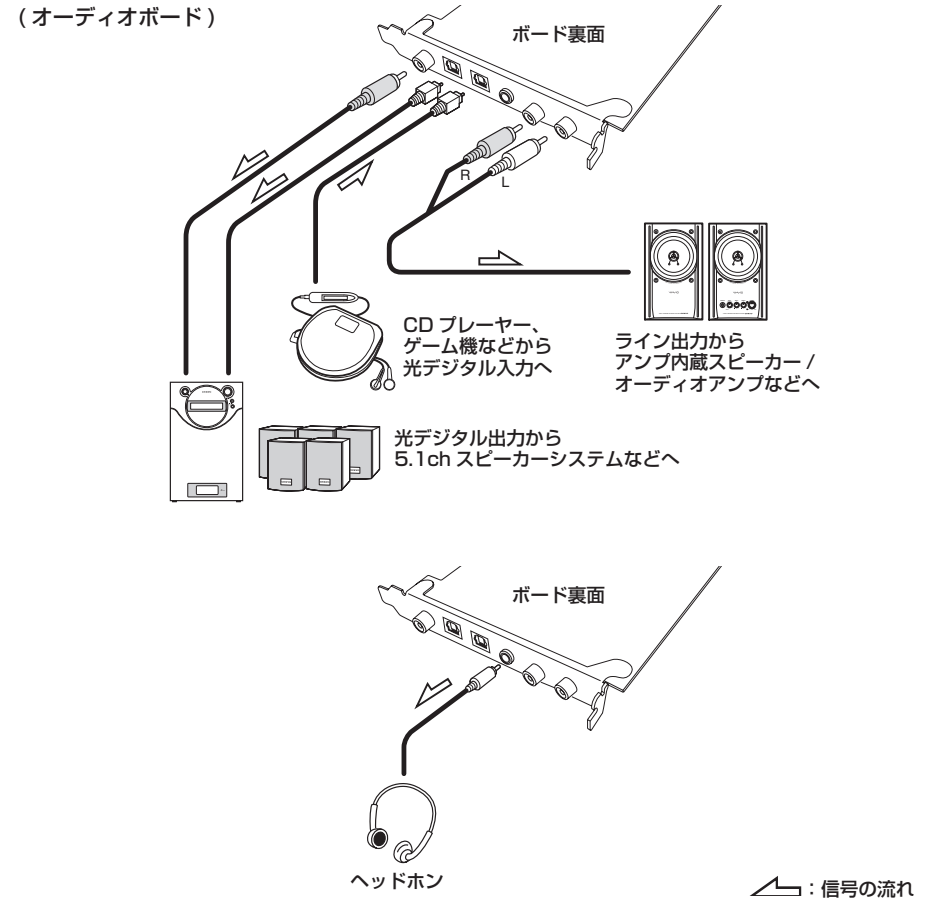
〈接続する前に〉

- オーディオ用ピンコードは、次のように接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

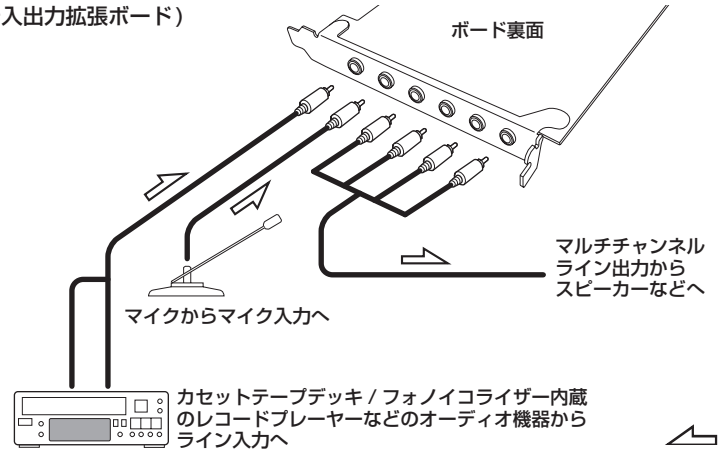


■ オーディオ機器との接続例



接続する

（マルチ入出力拡張ボード）



ドライバのインストール

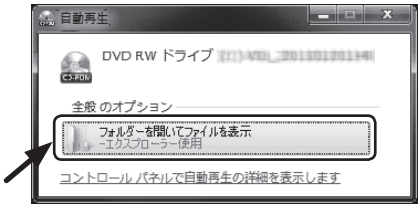
本書では、Windows 7の画面で説明しています。
OSのバージョンによって表示される画面構成や文字が違う場合があります。

■ ドライバのインストール

ご注意

インストール作業を開始する前に必ずパーソナルコンピュータの電源が切れていることを確認してください。
また、必ずAdministrator権限のアカウントにてインストールを開始してください。

1. パーソナルコンピュータの電源がOFF状態であることを確認して、SE-300PCIEをPCIeの空いているスロットに差し込みます。（9～11ページをご覧ください）
2. SE-300PCIEが確実にパソコンに取り付けられていることを確認した上で、パーソナルコンピュータの電源をONにしてください。
3. パーソナルコンピュータのCD-ROMドライブにSE-300PCIEのインストールCD-ROMを挿入してください。
   自動再生の画面が現れるまで少しお待ちください。

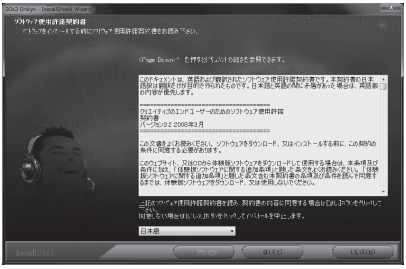
   自動再生の画面が現れたら、プログラムの［全般のオプション］から［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択し、［現在ディスクにあるファイル］から［SE-300PCIE］→［Setup］プログラムを選択し、実行してください。

   ♪ヒント

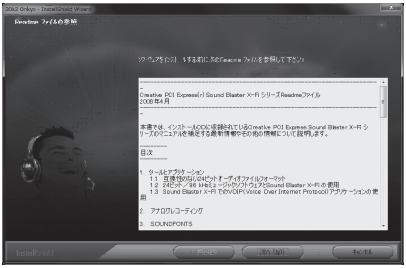
   Windows 8の場合は、スタート画面→「デスクトップ」をクリックした後にCD-ROMをセットしてください。
4. ユーザーアカウント制御の画面が出てきますので［はい］を選択してクリックします。
5. ［言語］画面が表示されますので、お使いになる言語を選択して［次へ］をクリックしてください。

ドライバのインストール

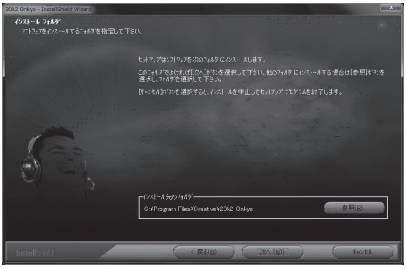
6. ［ソフトウェア使用許諾契約書］画面が表示されますので内容をよくご確認いただき同意する場合は［はい］をクリックしてください。



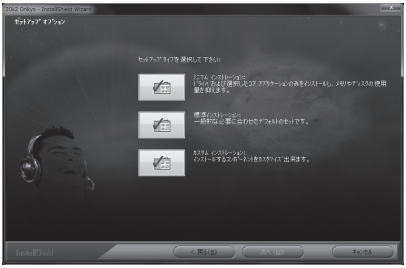
7. ［Readme ファイルの参照］画面が表示されますので内容をよくご確認いただき［次へ］をクリックしてください。



8. ［インストール フォルダ］画面が表示されますのでインストール先のフォルダを指定して［次へ］をクリックしてください。

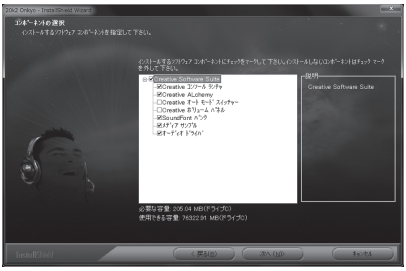


9. ［セットアップ　オプション］画面が表示されますのでセットアップタイプを選択してください。
［カスタムインストレーション］を選択した場合は、手順10へ進んでください。それ以外を選択した場合は、手順11へ進んでください。



ドライバのインストール

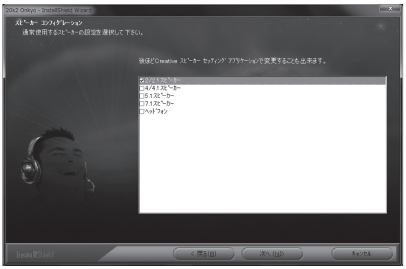
10. [コンポーネントの選択] 画面が表示されますので、インストールするソフトウェアのコンポーネントを指定してください。



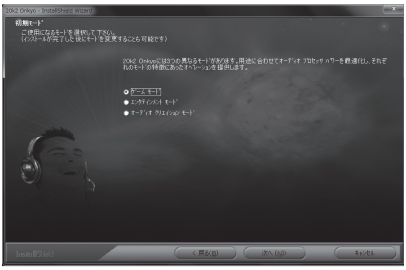
11. [スピーカーコンフィグレーション] 画面が表示されますので通常使用するスピーカーの設定を選択してください。

ご注意

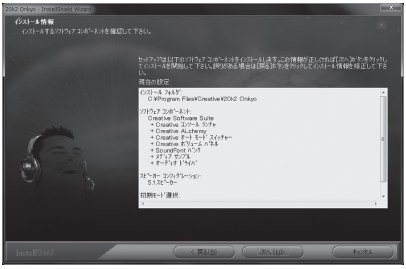
お使いの環境によって、この画面が表示されないことがあります。スピーカーコンフィグレーションは、ドライバーインストール後に設定することが出来ます。



12. [初期モード] 画面が表示されますので、ご使用になるモードを選択してください。インストール完了後に変更することも可能です。



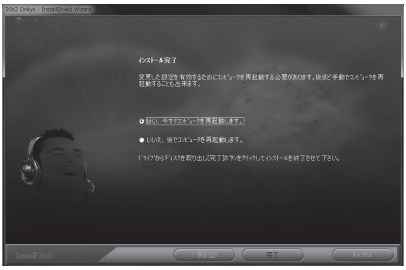
13. [インストール情報] 画面が表示されますので、インストールするソフトウェアコンポーネントを確認して情報が正しければ [次へ] をクリックしてください。誤りがある場合は [戻る] をクリックしてインストール情報を修正してください。



ドライバのインストール

14. インストールが開始されます。少しお待ちください。

15. [インストール完了] 画面が表示されますので [はい、今すぐコンピュータを再起動します。] が選択されているのを確認して [完了] をクリックしてください。パーソナルコンピュータが再起動します。



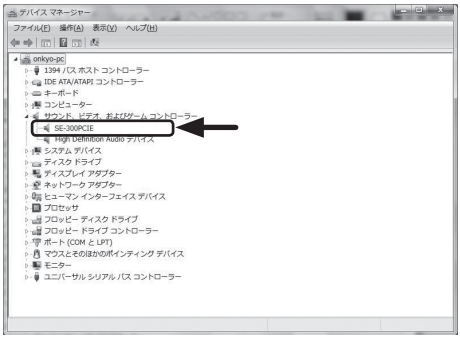
※インストール完了後、再度 [Setup] プログラムを開くと [プログラム メンテナンス] 画面が表示され、プログラムの追加・削除・修復を行うことができます。

ドライバのインストール

Windows 8については、マウスやキーボードでの操作を前提に記載しています。お使いのパーソナルコンピュータがタブレット機能を持つ場合は、パーソナルコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

■ デバイスドライバインストールの確認

デバイスドライバのインストール後、［デバイスマネージャー］から次のデバイス名が正常に表示していることを確認してください。



(Windows 8の場合)

デバイスマネージャーは「デスクトップ」→右クリックして「個人設定」→「コントロールパネル ホーム」→「デバイスマネージャー」を開きます。

(Windows 7の場合)

デバイスマネージャーは［コントロールパネル］→［ハードウェアとサウンド］→［デバイスマネージャー］を開きます。

(Windows Vistaの場合)

デバイスマネージャーは［コントロールパネル］→［システムとメンテナンス］→［デバイスマネージャ］を開きます。

サウンド、ビデオ、およびゲーム コントローラ

- SE-300PCIE

■ オーディオデバイスの確認

(Windows 8の場合)

「デスクトップ」→右クリックして「個人設定」→アドレスバーの「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「オーディオデバイスの管理」をクリックし、サウンド画面を開きます。

(Windows 7/Windows Vistaの場合)

［コントロールパネル］→［ハードウェアとサウンド］→［オーディオデバイスの管理］をクリックし、サウンド画面を開きます。

スピーカー表示にSE-300PCIEが存在し、動作中であることを確認してください。

さらに、アイコン横に緑のチェックが入っていることを確認してください。

バランス調整について

［プロパティ］→［レベル］→［バランス］で調整できます。

コンソールランチャの使い方

Windows 8/Windows 7/Vista共通の操作です。

■ コンソールランチャの起動

[スタート]→[すべてのプログラム]→[ONKYO]→[SE-300PCIE]→[コンソールランチャ]をクリックして起動します。
または、[スタート]→[すべてのプログラム]→[ONKYO]→[SE-300PCIE]→[ボリュームパネル]をクリックし[コンソールランチャ]オプションをクリックして起動することもできます。
次回起動時からタスクトレイ上で[ボリュームパネル]アイコンをクリックし[コンソールランチャ]オプションをクリックして起動することもできます。

♪ヒント

Windows 8の場合は、スタート画面の右下にある[すべてのアプリ]をクリックしてから起動できます。

ボリュームパネルアイコン

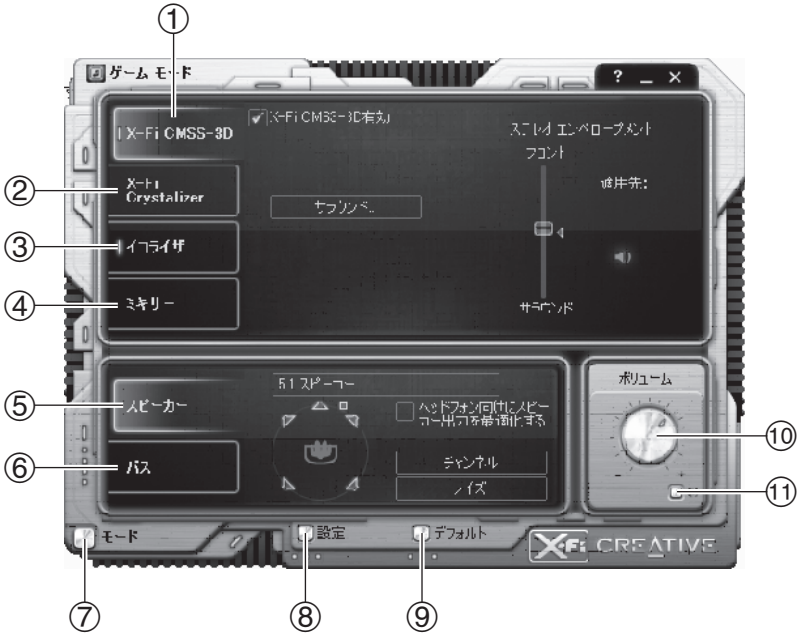
■ コンソールランチャのモードについて

コンソールランチャは、ゲームモード、エンターテインメントモード、オーディオクリエーションモードの3つのモードを使用することができます。
ゲームモード(→P20)はゲーム、エンターテインメントモード(→P25)は音楽の再生、オーディオクリエーションモード(→P31)は音楽の録音に適したモードです。

コンソールランチャの使い方

■ ゲームモード

ゲームモードは、ゲームの3DオーディオとEAXのパフォーマンスに合わせてオーディオボードの機能が最適化されます。ゲームに最適なモードです。



① X-Fi CMSS-3D
② X-Fi Crystalizer
③ イコライザ
④ ミキサー
⑤ スピーカー
⑥ バス
⑦ モード
⑧ 設定
⑨ デフォルト
⑩ ボリューム
⑪ ミュート

♪ヒント

「X-Fi CMSS-3D」、「X-Fi Crystalizer」、「イコライザ」設定が有効のとき、タブ左の青色インジケータが光ります。

コンソールランチャの使い方

① X-Fi CMSS-3D

マルチチャンネルスピーカーをご使用の場合

X-Fi CMSS-3D Surroundでステレオソースを4.1チャンネルから7.1チャンネルのサラウンドサラウンドにアップミックスすることができます。

「ステレオエンベロープメント」スライダーを上下にドラックして、フロントスピーカーとサラウンドスピーカー間のアップミックスバランスを調整できます。最良の効果を得るには、スライダーを中央にドラックするか、矢印のアイコンをクリックしてデフォルト設定に戻します。また**「アップミックスモード」**リストでは**「ステレオエクスパンド」**/**「ステレオサラウンド」**オプションを選択でき**「アップミックス」**リストで**「オート」**/**「オン」**/**「オフ」**を選択できます。

2スピーカーシステムまたは4スピーカーシステムをご使用の場合

X-Fi CMSS-3D Virtual機能を使用して、ステレオサウンドをマルチチャンネルのサラウンドサウンドに拡張します。**「マクロエフェクト」**リストおよび**「エレベーションフィルタ」**リストで**「オート」**/**「オン」**/**「オフ」**を選択できます。

ヘッドホンをご使用の場合

X-Fi CMSS-3D Headphone機能を使用して、マルチチャンネルコンテンツをヘッドホン向けにダウンミックスします。**「マクロエフェクト」**リストおよび**「エレベーションフィルタ」**リストで**「オート」**/**「オン」**/**「オフ」**を選択できます。

♪ヒント

マクロエフェクトおよびエレベーションフィルタエフェクトは、以下の条件でX-Fi CMSS-3D VirtualまたはX-Fi CMSS-3D Headphoneが有効のとき使用できます。
ソース：ダイレクトサウンド、OpenAL、3MIDI
スピーカー：2スピーカー構成、4スピーカー構成、ヘッドホン

マクロエフェクト

- ▶ **オート**:
  ゲームアプリケーションがそれぞれの3Dサウンドソースに対して、個別にマクロエフェクトの設定をコントロールします。
- ▶ **オン**:
  ユーザーから1メートル以内の距離にあるサウンドソースに対する近接キューが再生されます。
- ▶ **オフ**:
  エフェクトが無効になります。

エレベーションフィルタエフェクト

▶**オート**:
ゲームアプリケーションがそれぞれの3Dサウンドに対して、個別にエレベーションフィルタエフェクトをコントロールします。

▶**オン**:
ゲームサウンドが水平位置より高い位置からでも低い位置からでも聞こえるようなエレベーションフィルタが実行されます。一人称視点の3Dゲームに効果的です。

▶**オフ**:
エフェクトが無効になります。第三者的視点の3Dゲームに効果的な場合があります。

② X-Fi Crystalizer

CDまたはMP3の音声のディテールおよび効果を向上させます。シャープな音の立ち上がりを含んだ音楽成分は、通常は歪みを防止するために抑える必要がありますが、X-Fi Crystalizerは、このような場合に効果的です。
「X-Fi Crystalizer有効」チェックボックスにチェックし、スライダーを左右にドラッグして、値を調整できます。

③ イコライザ

イコライザは、音質の改善や微調整に使用します。あらかじめ用意されているプリセットを選択するか、あらかじめ設定された周波数帯域のブースト/カット量(最大12dB)を調節できます。またオリジナルの設定をカスタムプリセットして保存することもできます。

ご注意

すべてのスライダーを上限値付近までドラックしないようにしてください。歪みが生じる場合があります。歪みが生じた場合、歪みを除去するために以下のいずれかの方法を行ってください。

- **「イコライザ」**タブの**「レベル」**スライダーを歪みが除去されるまで下向きにドラックしてください。
- **「デフォルト」**ボタンをクリックしてください。すべてのスライダーが0dBにリセットされ、歪みが除去されます。
- **「イコライザ」**タブの各スライダーレベルを歪みが除去されるまで下げてください。特に、バス周波数をコントロールする左端のスライダーレベルを下げてください。
- **「ミキサー」**タブの実行中のソースレベルを下げてください。

コンソールランチャの使い方

④ ミキサー

オーディオソースと録音ボリュームを調整できます。スライダーを上下にドラッグしてボリュームを調整してください。
「SVM有効」チェックボックスでは、SVM(スマートボリュームマネジメント)を設定することができます。SVMは、再生時のボリュームを一定にするのでゲームサウンドが大きくなりすぎたり小さくなりすぎたりすることがなく、ボリュームを手動で調整する必要はありません。**「EAXエフェクト有効」**チェックボックスにチェックし、スライダーを左右にドラッグして、エフェクト量を調整できます。**「マイクエンバイロメントエフェクト」**スライダーで、エフェクト量を調整することもできます。

♪ヒント

EAXとは、ゲーム画面と同期したリアルな音響効果を実現することができます。また出力するスピーカーをコントロールすることで音の方向性を再現し、立体感のある音響効果を出すことができます。

⑤ スピーカー
スピーカーがオーディオデバイスに誤って接続されていないかどうかを確認するためにスピーカーのテストを行うことができます。**「チャンネル」**ボタンをクリックして各スピーカーを特定する一連のサウンドを再生するか**「ノイズ」**ボタンをクリックして時計回りの順序でノイズサウンドを再生します。

⑥ バス

サブウーファーをご使用の場合
「バスリダイレクション有効」チェックボックスにチェックし**「クロスオーバー周波数」**スライダーをドラッグして、ローパス周波数範囲を調整することができます。**「サブウーファーゲイン」**チェックボックスにチェックし、サブウーファの音量を調節することもできます。

ご注意

「バスリダイレクション有効」にチェックが入ってないと、サブウーファーから音声信号は出力されません。

小型スピーカーをご使用の場合
「バスブースト有効」チェックボックスにチェックし**「レベル」**と**「カットオフ周波数」**スライダーをドラッグして値を調節することができます。

コンソールランチャの使い方

⑦ **モード**
ゲームモード、エンターテインメントモード、オーディオクリエーションモードを切り替えることができます。

⑧ **設定**
「ヘッドホン」、**「SPDIF I/O」**、**「デジタル I/O」**に関する設定を行うことができます。

⑨ **デフォルト**
ゲームモードのすべての設定をデフォルトに戻します。

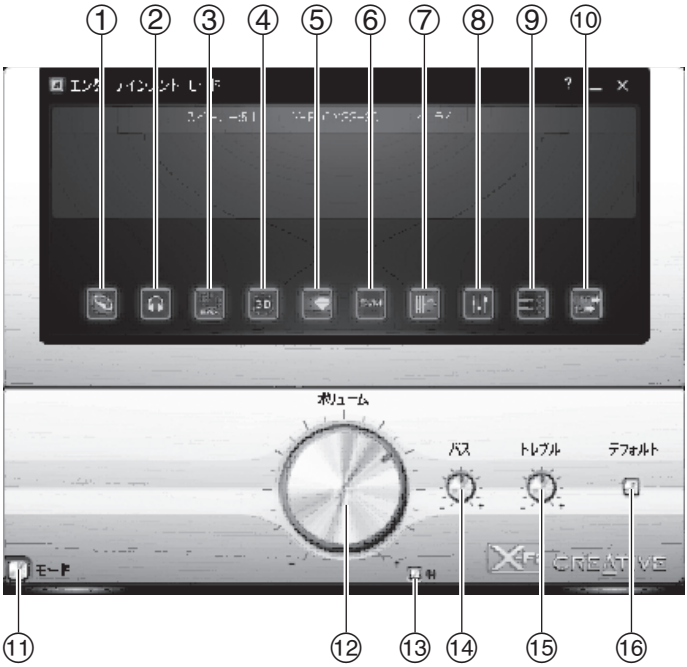
⑩ **ボリューム**
ボリュームを調節します。

⑪ **ミュート**
ボリュームをミュートします。

コンソールランチャの使い方

■ エンターテインメントモード

エンターテインメントモードでは、ムービーのサウンドトラックと音楽の再生用にオーディオデバイスの機能が最適化されます。



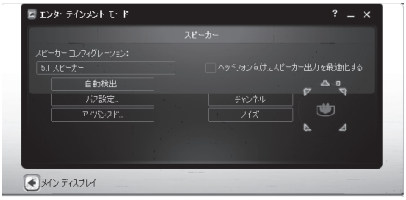
① スピーカー /ヘッドホン
② ヘッドホン
③ EAX エフェクト
④ X-Fi CMSS-3D
⑤ X-Fi Crystalizer
⑥ スマートボリュームマネジメント
⑦ グラフィックイコライザ
⑧ ミキサー
⑨ ジャック
⑩ デジタル I/O
⑪ モード
⑫ ボリューム
⑬ ミュート
⑭ バス
⑮ トレブル
⑯ デフォルト

♪ヒント

現在の設定状況が**「エンターテインメント」**パネルの上部に表示されます。

コンソールランチャの使い方

① **スピーカー /ヘッドホン**



「自動検出」ボタン
自動的に現在のスピーカー設定に切り替わります。

「バス設定」ボタン

サブウーファーをご使用の場合
「バスリダイレクション有効」チェックボックスにチェックし**「クロスオーバー周波数」**スライダーをドラッグして、ローパス周波数範囲を調整できます。**「サブウーファーゲイン」**チェックボックスをクリックし、サブウーファの音量を調節することもできます。

ご注意
「バスリダイレクション有効」にチェックが入ってないと、サブウーファーから音声信号は出力されません。

小型スピーカーをご使用の場合
「バスブースト有効」チェックボックスにチェックし**「レベル」**と**「カットオフ周波数」**スライダーをドラッグして値を調節できます。

「アドバンスド」ボタン

スピーカーのバランス調整とフロント、センター、サイド、リア の各スピーカーおよびサブウーファーのボリューム調整ができます。**「スピーカーコンフィグレーション」**の設定内容によって設定できる項目は異なります。

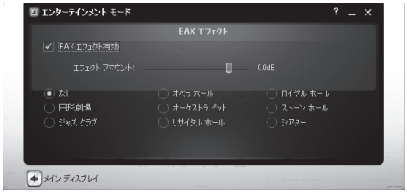
「チャンネル」/**「ノイズ」**ボタン
スピーカーがオーディオデバイスに誤って接続されていないかどうかを確認するためにスピーカーのテストを行うことができます。**「チャンネル」**ボタンをクリックして各スピーカーを特定する一連のサウンドを再生するか**「ノイズ」**ボタンをクリックして時計回りの順序でノイズサウンドを再生します。

コンソールランチャの使い方

② ヘッドホン

ヘッドホンを接続した場合の設定を行うことができます。

③ EAX エフェクト



「EAXエフェクト有効」チェックボックスにチェックし、スライダーを左右にドラッグしてエフェクト量を調整できます。また利用するエンバイロメントエフェクトを選択することもできます。

♪ヒント

EAXとは、ゲーム画面と同期したリアルな音響効果を実現することができます。また出力するスピーカーをコントロールすることで音の方向性を再現し、立体感のある音響効果を出すことができます。

④ X-Fi CMSS-3D

マルチチャネルスピーカーをご使用の場合

X-Fi CMSS-3D Surroundでステレオソースを4.1チャンネルから7.1チャンネルのサラウンドにアップミックスすることができます。
「ステレオエンベロープメント」スライダーを上下にドラックして、フロントスピーカーとサラウンドスピーカー間のアップミックスバランスが調整できます。最高のアップミックスエフェクトを得るには、スライダーを中央にドラックするか、矢印のアイコンをクリックしてデフォルト設定に戻します。
また**「アップミックス モード」**では**「ステレオエクスパンド」**/**「ステレオサラウンド」**オプションを選択できます。

ステレオスピーカーまたはヘッドホンをご使用の場合

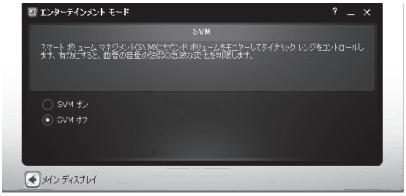
X-Fi CMSS-3D VirtualまたはX-Fi CMSS-3D Headphoneを使用して、再生中にバーチャルサラウンドエフェクトを生成することができます。
「ステレオエンベロープメント」 スライダーを上下にドラックして、フロントスピーカーとサラウンドスピーカー間のサウンドバランスを調整できます。
最高のサウンドエフェクトを得るには、スライダーを中央にドラックするか、矢印のアイコンをクリックしてデフォルト設定に戻します。

コンソールランチャの使い方

⑤ X-Fi Crystalizer

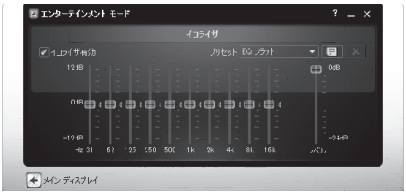
CDまたはMP3の音声のディテールおよび効果を向上させます。シャープな音の立ち上がりを含んだ音楽成分は、通常は歪みを防止するために抑える必要がありますが、X-Fi Crystalizerは、このような場合に効果的です。
「X-Fi Crystalizer有効」チェックボックスにチェックし、スライダーを左右にドラッグして、値を調整できます。

⑥ **スマートボリュームマネジメント**



スマートボリュームマネジメント(SVM)は再生時のボリュームを一定ボリュームに設定し、複数のトラックを再生中にボリュームを頻繁に調整する必要はありません。

⑦ **グラフィック イコライザ**



イコライザは、音質の改善や微調整に使用します。あらかじめ用意されているプリセットを選択するか、あらかじめ設定された周波数帯域のブースト/カット量(最大12dB)を調節できます。またオリジナルの設定をカスタムプリセットして保存することもできます。

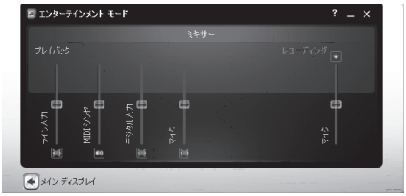
ご注意

すべてのスライダーを上限値付近までドラックしないようにしてください。歪みが生じる場合があります。歪みが生じた場合、歪みを除去するために以下のいずれかの方法を行ってください。

- **「イコライザ」**タブの**「レベル」**スライダーを歪みが除去されるまで下向きにドラックしてください。
- **「デフォルト」**ボタンをクリックしてください。すべてのスライダーが0dBにリセットされ、歪みが除去されます。
- **「イコライザ」**タブの各スライダーレベルを歪みが除去されるまで下げてください。特に、バス周波数をコントロールする左端のスライダーレベルを下げてください。
- **「ミキサー」**タブの実行中のソースレベルを下げてください。

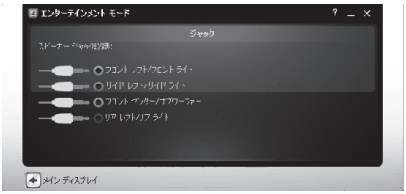
コンソールランチャの使い方

⑧ ミキサー



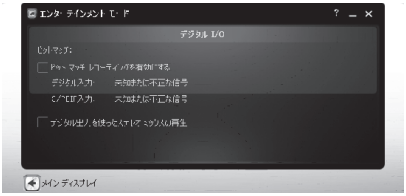
オーディオソースと録音ボリュームを調整できます。スライダーを上下にドラッグしてボリュームを調整してください。

⑨ ジャック



スピーカー端子の接続を確認できます。

⑩ デジタル I/O



ビットマッチモードを有効にすると、オーディオを強化したり、データを変更することなく、ソースから直接オーディオデータを録音できます。
「デジタル出力を使ったステレオミックスの再生」を有効にすると、オーディオ出力がデジタル出力端子に出力されます。

♪ヒント

- ビットマッチモードが有効な状態で録音ソースのゲインレベルを調整しても、録音には適応されません。録音ソースのゲインレベルを調整する前に、ビットマッチモードを無効にしてください。
- 録音中のビットマッチモードは、ソースと録音時の録音サンプリングレートが一致する場合にのみ使用できます。
- ビットマッチ録音を正確に実行できるのは、オーディオデータの録音ソースがSPDIF入力端子からである場合のみです。

コンソールランチャの使い方

⑪ **モード**
ゲームモード、エンターテインメントモード、オーディオクリエーションモードを切り替えることができます。

⑫ **ボリューム**
ボリュームを調節します。

⑬ **ミュート**
ボリュームをミュートします。

⑭ **バス**
バスの調整を行います。

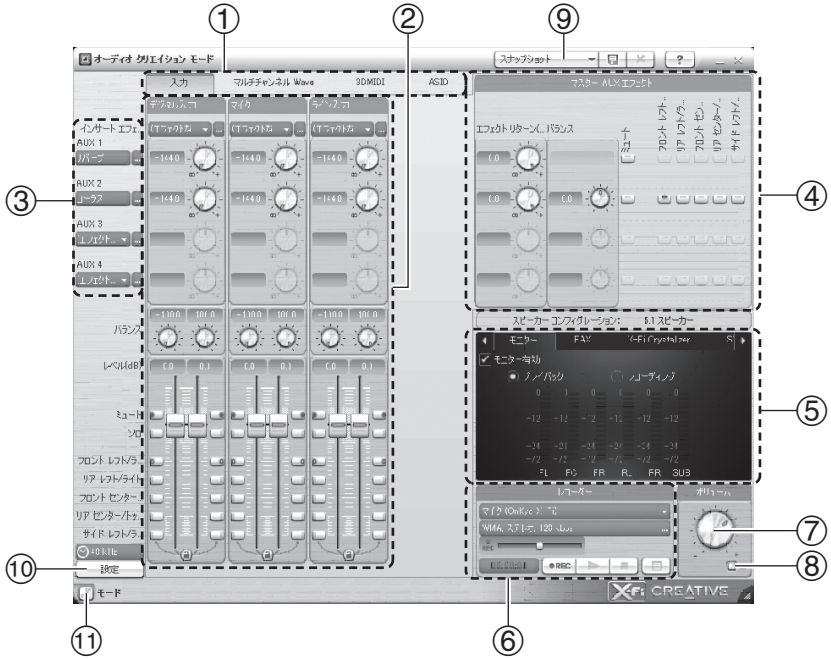
⑮ **トレブル**
トレブルの調整を行います。

⑯ **デフォルト**
エンターテインメントモードのすべての設定をデフォルトに戻します。

コンソールランチャの使い方

■ オーディオクリエーションモード

オーディオクリエーションモードでは、スタジオレベルのハードウェアミキサー機能を完全に再現します。オーディオデバイスの性能を最大限に活用し、ASIOルーティングやボリュームコントロール、ステレオバランスの調整、エフェクト編集およびエフェクト処理などの高度な処理をパーソナルコンピュータのプロセッサに負担をかけることなく実行できます。



① オーディオソースカテゴリ
② ミキサーストリップ
③ AUXエフェクトセレクション
④ マスター AUXエフェクト
⑤ インテグレーテッド/グローバルエフェクト
⑥ レコーダー
⑦ ボリューム
⑧ ミュート
⑨ スナップショット
⑩ 設定
⑪ モード

♪ヒント

オーディオクリエーションモードでプロジェクトを開始する前に**「設定」**ダイアログボックスのマスターサンプリングレート(MSR)が他のプログラムやお使いのデジタル機器の数値と一致していることを確認してください。

コンソールランチャの使い方

① **オーディオソースカテゴリ**
オーディオソースカテゴリタブで、必要なオーディオソースを選択できます。**「オーディオクリエーションモード」**コンソールでは、入力、マルチチャンネルWave、3DMIDI、およびASIOといった4種類のカテゴリをサポートしています。これらのタブをクリックすると、それぞれのミキサーストリップがロードされます。

② **ミキサーストリップ**
ミキサーストリップは、オーディオソースカテゴリが選択されているときのソース入力チャンネルまたはチャンネルペア(入ってくる信号がステレオの場合)に対して指定されます。

♪ヒント
- **「ロック」**ボタンをクリックすると両チャンネルのボリューム、ミュート、ソロおよびバスルーティングの設定が連動します。
- ストリップの位置を交換するには、ストリップの任意の場所を右クリックすると、選択メニューが表示されるので、現在のストリップと交換するストリップを選択してください。

③ **AUXエフェクトセレクション**
AUXエフェクトセレクションパネルは、4つのAUXエフェクトセレクションリストとそれに対応するエフェクトエディタボタンで構成されています。エフェクトエディタは、コントロールの深度を失うことなく、重要なパラメータに迅速かつ簡単にアクセスすることにより、エフェクトのパラメータを効率的に調整できます。

④ **マスター AUXエフェクト**
メインのミキサーに戻すウェット信号に関する設定などを行うことができます。

⑤ **インテグレーテッドモニター /グローバルエフェクト**
インテグレーテッドモニター /グローバルエフェクトパネルは、レベルの監視とグローバルエフェクトの適用とを切り替えるのに便利です。
「モニター」タブでは、再生用/録音用のピークメーターを表示できます。
「EAX」、 **「X-FiCrystalizer」**、**「SVM」**、**「イコライザ」**タブでは、それぞれの設定を行うことができます。

⑥ **レコーダー**
録音に関する設定を行うことができます。

♪ヒント
- サポートしているオーディオファイルはWMA、WAV、およびマルチチャンネルWAVです。
- 録音レベルを高く設定しすぎると、クリッピングの原因になる場合があります。
- サポートしているファイルサイズは最大2GBです。
- 以前の録音ファイルを再生するには、レコーディングリストボタンを参照してください。

⑦ **ボリューム**
ボリュームを調整します。

⑧ **ミュート**
ボリュームをミュートします。

⑨ **スナップショット**
セッション全体で特定の時点におけるすべての設定を記録し、そのスナップショットが作成された時点で使用されていた設定をそのまま再現できます。

コンソールランチャの使い方

⑩ **設定**
「クロック」、**「ヘッドホン」**、**「ビットマッチ」**、 **「SPDIF I/O」**、**「デジタルI/O」**タブでそれぞれの設定を行うことができます。

⑪ **モード**
ゲームモード、エンターテインメントモード、オーディオクリエーションモードを切り替えることができます。

♪ヒント

- マスターサンプリングレート（MSR）を高くすると、音の再現性が高くなりますが、ミキサー機能は低くなることがあります。
- ビットマッチ再生を有効にすると、イコライザ、X-Fi Crystalizer、SVMが無効になります。

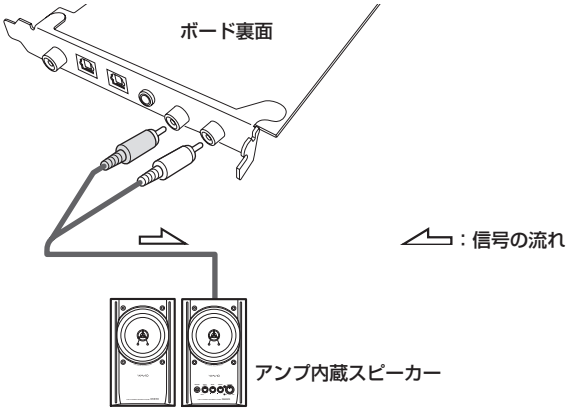
より原音に忠実な音でお楽しみいただくために

SE-300PCIE は、X-Fi チップを搭載することにより、様々なエフェクト効果が得られるようになっておりますが、より原音に忠実な音でお楽しみいただく場合、オーディオクリエイションモードにて種々のエフェクト効果を解除した上で、さらに下記のように Windows サウンド設定のサンプリングレートと、コンソールランチャのサンプリングレートを、ソースのサンプリングレートに合わせることで、より原音に忠実な音でお楽しみいただけます。
ただし、この場合のサンプリングレートは、オーディオクリエイションモードの制約上 96kHz までとなります。 お好みに応じて、設定してください。

再生する

■ パーソナルコンピュータの音声をアンプ内蔵スピーカーで再生する(ライン出力)

1. アンプ内蔵スピーカーを図のようにSE-300PCIE本体に接続します。



2. ボリュームコントロールを開き、再生したい音声の[ミュート]のチェックボックスにチェックが入っていないか確認し、入っている場合はチェックを外してください。
お使いのパーソナルコンピュータ環境によっては、ミキサーコントロール等の名前の場合もあります。

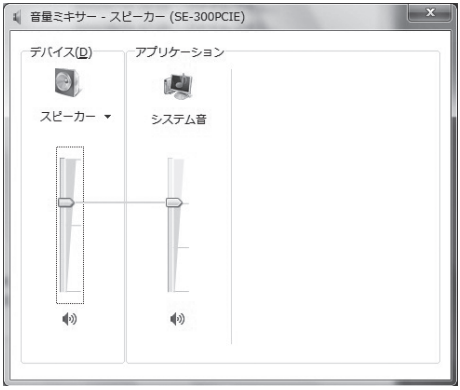
<ボリュームコントロールの開き方>

(Windows 8 の場合)

1. スタート画面→ [デスクトップ] をクリックします。
2. プログラムやファイルのアイコンがない所で右クリックして [個人設定] を選択します。
3. アドレスバーの [コントロールパネル] をクリックします。
4. [ハードウェアとサウンド] をクリックします。
5. [システム音量の調整] をクリックします。
6. [デバイス]の音量スライダーで調整します。

(Windows 7/Windows Vista の場合)

1. [スタート] → [コントロールパネル] を選択します。
2. [ハードウェアとサウンド] をクリックします。
3. [システム音量の調整] をクリックします。
4. [デバイス]の音量スライダーで調整します。

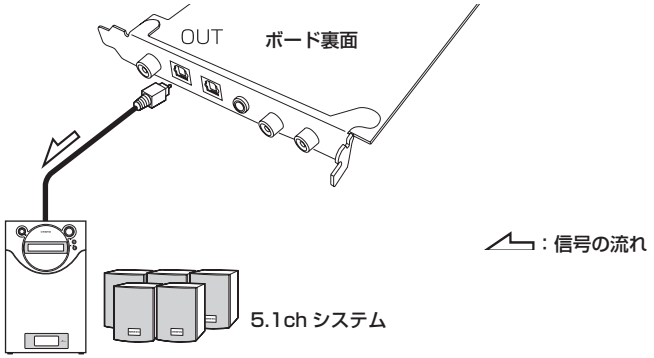


3. Windowsに付属の「Windows Media Player」などで音声を再生します。

再生する

■ パーソナルコンピュータの音声をマルチチャンネルデジタルホームシアターシステムで再生する

1. マルチチャンネルシステムを図のようにSE-300PCIE本体に接続します。



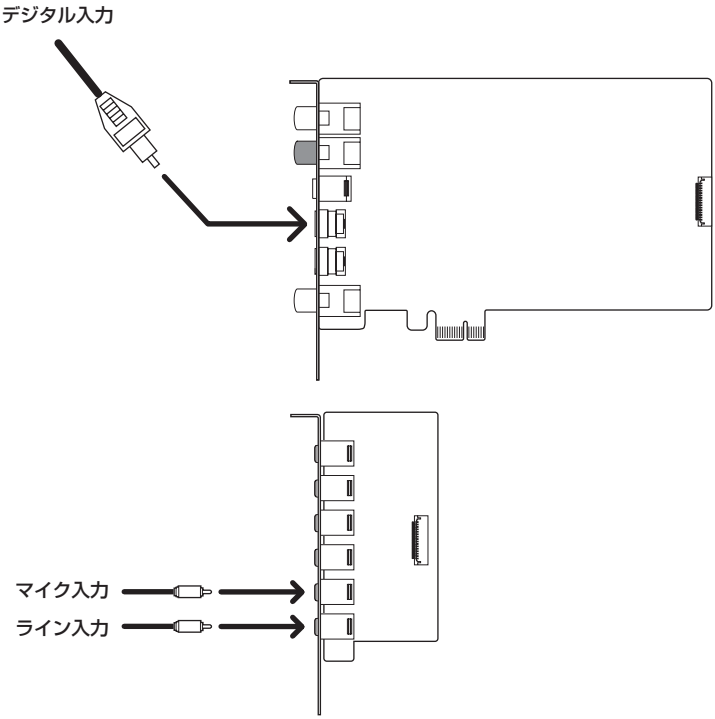
2. サウンド画面(→P18)の[SPDIF出力]を選択し、アイコン横に緑のチェックが入っていることを確認してください。

3. DVDプレーヤーソフトなどで音声を再生します。

録音する

■ 外部のオーディオソースを録音する

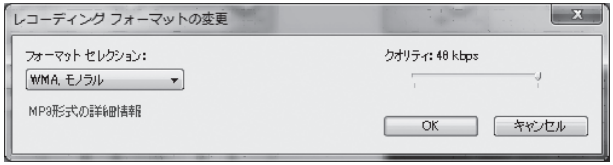
1. 録音したい外部機器を接続してください。
   オーディオデバイス上に正しく接続されていることを確認してください。



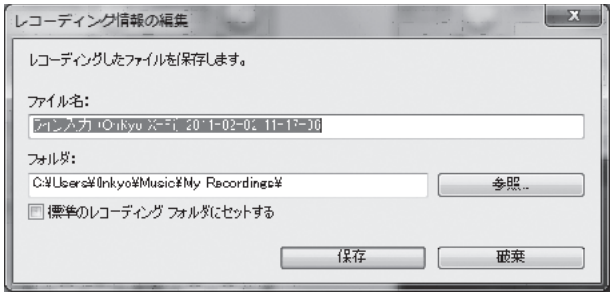
2. デジタル音声を録音する場合は、サウンド画面 (→P18) の録音タブをクリックし、[デジタル入力] を選択してアイコン横に緑のチェックが入っていることを確認してください。

録音する

3. オーディオクリエーションモードの**「入力」**タブをクリックします。
   マルチチャンネル Wave を録音する場合は、**「マルチチャンネル Wave」**タブをクリックしてください。
4. **「レコーダー」**パネルでレコーディングソースリストから録音ソースを選択し、レコーディングフォーマットセレクションボタンをクリックします。
   「レコーディングフォーマットの変更」ダイアログボックスが表示されます。



5. **「フォーマットセレクション」**リストから音声ファイル形式を選択します。
6. パラメータを設定します。
   音声ファイル形式によって設定できるパラメータ項目は異なります。
7. **「OK」**ボタンをクリックして**「レコーディングフォーマットの変更」**ダイアログボックスを閉じます。
8. チャンネルレベルを監視するには、インテグレーテッド / グローバルエフェクトパネルの**「モニター」**タブをクリックし、**「レコーディング」**オプションボタンをクリックします。
9. 外部のオーディオソースが接続されている入力名のあるミキサーストリップで、入ってくる音声のレベルやバランスなどを必要に応じて調整してください。
10. 録音ボタンをクリックし、録音を開始してください。
11. ストップボタンをクリックし、録音を停止してください。
    「レコーディング情報の編集」ダイアログボックスが表示されます。



12. **「ファイル名」**ボックスで新しいファイル名を入力し、**「フォルダ」**ボックスで、録音したファイルを保存するフォルダを設定します。
13. **「保存」**ボタンをクリックし、録音ファイルを保存します。

録音したものは、個人として楽しむ以外には著作権法上、権利者に無断で使用できません

故障かな？と思ったら

正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処理をしても直らないときやこれ以外の症状のときは、「製品の型番」「接続している他機器」「できるだけ詳しい故障状況」「ご購入店名」「ご購入年月日」をできるだけ詳しく、お買い上げ販売店、またはオンキヨー修理窓口までご連絡ください。

症状	原因	処置
デバイスを認識しない。	• 接続が不完全。	• 9～11ページを参考に、オーディオボードが確実にパーソナルコンピュータに接続されているか、確認してください。
	• その他のデバイスとIRQなどのリソースが競合している。	• ボードを取り付けるPCIEスロットの位置を変更、または利用していないオンボードデバイスをBIOSから無効に設定をしてください。
音声が出ない。	• ミュートされている。	• Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音量の調節」パネルを開き、ミュートのチェックをはずしてください。
	• 出力レベルが小さい。	• Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音量ミキサ」を開き、適正な値に調整してください。
	• 他の音声出力デバイスが使用されている。	• オーディオデバイスが正しく選択されていることをご確認ください。（18ページ）
	• 外部アンプあるいはスピーカーに問題がある。	• ラインアウト端子から外部アンプやスピーカーに確実に接続されているかどうか確認してください。その際、ケーブルに問題がないか併せてご確認ください。また、外部アンプやスピーカーの電源やボリュームを確認してください。
	• 入出力端子が正しく接続・設定されていない。	• 40ページの表をご覧になり、正しく接続・設定してください。
左右の音量バランスがかたよっている。	• バランスが中央に設定されていない。	• バランスを調整してください。（18ページ）
	• 外部アンプあるいはスピーカーに問題がある。	• 外部アンプやスピーカーのバランスを確認してください。
マルチチャンネルデジタル出力が出来ない。	• 他の音声出力デバイスが使用されている。	• オーディオデバイスが正しく選択されていることをご確認ください。（18ページ）
	• 使用しているソフトがSE-300PCIEでのデジタル出力に対応していない。	• 使用しているソフトの仕様をご確認ください。
ライン音声が入力できない。	• ライン入力の接続が不完全。	• 外部からライン入力に確実に接続してください。
	• 外部機器から音声が出力されていない。	• 外部機器から音声が出力されているかどうか確認してください。
PCが起動しない。	• その他のデバイスとIRQなどのリソースが競合している。	• オーディオボードを取り付けるPCIeバス拡張スロットの位置を変更してください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
音が途切れる。	• 音声出力や入力中に、負荷のかかる作業をしている。 • CPUの処理が再生に追いついていない。 • DVD再生時、グラフィックカードのハードウェア再生支援機能を持っているパーソナルコンピュータで、機能が動作していない。	• 録音等をされる場合には、CPUに負荷のかかる作業は控えてください。 • CPUが推奨スペックを満たしていない場合は期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPUが推奨スペックを満たしている場合でもCPUが非常に高負荷の状態である場合は音が途切れることがあります。この場合は他のアプリケーションをすべて終了してください。 • DVDプレーヤーソフト側でハードウェア再生支援機能を有効にしてください。
雑音が多い。	• テレビなど、強い磁気を帯びたものの近くに置いている。 • 各入出力端子の接続が不完全。 • 外部スピーカーに問題がある。	• テレビなどから十分に離して置いてください。 • 12 ～ 13ページを参照して確実に接続してください。 • 接続するスピーカーの製造元にお問い合わせください。
CD-ROMドライブからの音声が出力されない。	• CD-ROMドライブがデジタル音声出力に対応していない。	• システムがCD-ROMドライブからのデジタル音声ストリームに対応していない場合、ドライブから出力された音声は出力されません。このような場合は、CD-ROMドライブの音声出力（ヘッドホン出力等）をライン入力に接続し、音量を適当な値に調節してください。

製品の故障により、正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDのレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をされるときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

主な仕様

形式： PCIeデジタルオーディオボード

接続方式： PCI Express×1

デジタル入力サンプリング周波数：44.1kHz/48kHz/96kHz

デジタル出力サンプリング周波数：32kHz/44.1kHz/48kHz/96kHz/192kHz

周波数特性： 0.3Hz～88kHz（2ch、ANALOG OUT、+0/−3dB）

0.3Hz～20kHz（+0/−0.5dB、マルチ出力）

SN比： 120dB（2ch ANALOG OUT）

全高調波歪率： 0.001%（1kHz、0dB）

ライン出力レベル：2Vrms

マイク入力感度： 20mV (rms)

音声入力：	デジタル	DIGITAL IN×1（光）
	アナログ	ANALOG IN×1（Φ3.5mm/ステレオ）
	マイク	MIC IN×1（Φ3.5mm/ステレオ）
音声出力：	デジタル	DIGITAL OUT×2（光×1、同軸×1）
	アナログ	2ch ANALOG OUT×1（ステレオRCA）
	マルチチャンネルプリアウト	7.1ch ANALOG OUT（Front L/R、Surround L/R、Center/Subwoofer (LFE)、Surround Back L/R）
	ヘッドホン	HEAD PHONE×1（Φ3.5mm/ステレオ）

仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

◎本製品の入力と出力の関係は以下の通りです。

出力 / 入力	2CH OUT/PHONE (2chダウンミックス出力)	FL/FR (フロントL/R出力)	SL/SR、CT/LFE、SBL/SBR (フロントL/R出力以外)	OPT/COAX OUT (光/同軸デジタル出力)
PC音声	○	○	○(3)	○(2)
LINE IN (1)	○	○	○(3)	○(2)
MIC (1)	○	○	○(3)	○(2)
OPT IN (1) (デジタル入力)	○	○	○(3)	○(2)

(1) [録音デバイス]の「録音」タブの各デバイス上で右クリックメニューを出して、そのプロパティ表示の[聴く]タブの[このデバイスを聴く]のチェックボックスにチェックしてください。(P36の「録音する」も参照願います。)

(2) [再生デバイス]の「再生」タブの、出力させたいデバイス上で、右クリックメニューを出して、そのメニュー表示の[既定のデバイスとして設定]を選択・適用してください。(P35の「再生する」も参照願います。)

(3) コンソールランチャのEAXエフェクト機能を有効にして、[なし]以外のモードを選択してください。

ご注意

スピーカー設定を7.1chなどのマルチチャンネル接続にした状態で、ケーブルを全部抜いて**「自動検出」**を行っても、そのままの状態を維持します。その場合は**「デフォルト」**ボタンを押して2チャンネルに戻してください。

ご相談窓口・修理窓口のご案内

■ 販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は

保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付けが必要となりますので、この場合は販売店様店頭への修理品お持込みをお願いいたします。

■ 「引取便サービス」による修理受付け

引取便サービスは弊社指定の配送業者が修理品を引取りに伺うサービスです。引取日時をご指定いただけます。

＜お電話でのお申込み＞

オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555
（受付時間：10:00 ～ 18:00　土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

＜メールでのお申込み＞

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。お持込みの際には営業日を確認のうえでご訪問いただくようお願いします。

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ 商品についてのご相談、リモコン等付属パーツ、その他ご不明な点は

下記のオンキヨーオーディオコールセンターへご相談ください

オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555
（受付時間：10:00 ～ 18:00　土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。保証期間は、
お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。このインストールマニュアルをもう一度よくお読みいただき、お調べください。
ホームページにサポート情報（http://www.jp.onkyo.com/support/audiovisual/index.htm）がございますので、そちらもあわせてご確認ください。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品等もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、修理を依頼してください。修理を依頼されるときは、次の事項をオンキヨーオーディオコールセンター、または「ご相談窓口・修理窓口のご案内」記載の他の修理窓口までお知らせください。

- ▶ **製品の型番**
- ▶ **接続している他機器**
- ▶ **できるだけ詳しい故障状況**
- ▶ **ご購入店名**
- ▶ **ご購入年月日**

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、オンキヨー修理窓口またはお買い上げの販売店へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は、販売店様店頭への修理品お持込みをお願いいたします。

■ 保証期間経過後の修理は

オンキヨー修理窓口またはお買い上げ店へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後、最大8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでオンキヨー修理窓口等へご相談ください。

2013年2月現在　電話番号、受付時間などは変更になることがございます。

ONKYO

オンキヨー株式会社
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
オンキヨーオーディオコールセンター
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Y1304-1

SN 29401515

(C) Copyright 2013 Onkyo Corporation Japan. All rights reserved.

* 2 9 4 0 1 5 1 5 *